
生贊の語り

霧夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生贊の語り

【Zコード】

N5055A

【作者名】

霧夜

【あらすじ】

私は祭りで、神様に供物を奉納する役目になつた。友人の代わりだつた。だがそれは

(前書き)

ホラーが好きなので、自分でも書いてみました。
どうぞよろしくね。 - - -

ずるつ。

足を引も縛る者と共に、あいつが来る

。

* * * * *

私は膝を立て、地面の上に座り込んでいた。背に回されて縛られた手が自由にならないか、何度も試したが全く駄目だった。手を拘束する紐は、近くにある大樹に巻き付き、堅く結ばれている。そのせいで逃げられない。

どうにも。

何であんな事を。

私は思ひ。

あの時、見栄を張りすこちやんと拒否していれば良かつたのに。

今、私は自責と後悔の念に犯されている

.....。

『祭りでは、神様に供物を奉納するんだよ。この役目に選ばれるのは、とても光栄な事なんだよ。なぜなら、神様と一緒に居られる資格を得たって事だからね』

ずっと昔に聞いた、亡くなつた祖母の言葉が蘇る。
長い間忘れてた。

私は、馬鹿だつたから。
何も知らうと、気付こうと、しなかつた。

だから。

祠にいる神様に供物を奉納する役を友人から頼まれた時、引き受けてしまつたのだ。

本来は彼女の役目だつた。でも彼女が泣き叫んで『代わりにやつてくれ』と言つから、渋々だが受諾した。
あんまり拒否すると、他人からとても酷い事をしていよいよ思わ
れそうで。

気付かなくてはならなかつたのだ。

祖母の言葉を。

どうして友人は嫌がつたのかを。

私が『やつてあげるよ』と言った時の、友人の救われた表情を。

手遅れ過ぎた、私の愚かさが自身の首を絞めた。

…………。

するり。

……ベヒョッ。

またあの音が。

その音で我に返る。

ひうっ、と喉の奥が勝手に振動した。渴き切った喉は強張り、張り付き、気持ち悪い。

同時に、私は身を震わせる。全身が総毛立ち、冷たい滴が背を伝う。気持ち悪さと圧迫感が体中を駆け巡る。私は耐えきれなくて、吐き気を催した。だが、何も出なかつた。

……ヒーヒー。

あいつが近づいていると。

それだけが私の中を支配していた。

足音を立てて。

後ろからゅつくり。

来てる。

来てる。 来てる。

来る。

あいつが……

するり。

真後ろから、音がした。

「 ! !

私は無音の叫びを上げる。

暑くもないのに汗が噴き出す。
寒くもないのに鳥肌が立つ。

あいつが。

今。

私の。

真後ろに

つい、と何かが頬を撫で上げた。

生暖かくて、柔らかくて、湿った、感触が。

人の手を模した、五本

のゴムのような肌触り。

出来損ないの人かと、錯覚する。

赤くて脂っこい、液体にまみれた指が。

私を、捕らえる。

するり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5055a/>

生贊の語り

2011年1月16日02時27分発行